イムマヌエル教報

2017.10

1947年7月1日第三種郵便物認可　2017年10月5日（毎月5日発行）　イムマヌエル綜合伝道団

No.855

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

創群の目的の再確認

ブロックアドバイザー　蔦田 直毅

「キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民を、ご自分のためにきよめるためでした。」（テトス二・14）

今年も教団創立記念日の月を迎え、各教会でも創立記念礼拝を守られることでしょう。世代は変わり、創設期を知る器方のほとんどが天に帰られている今、私たちはイメージや思い込みでなく、群が置かれている意味、主がこの群を興し、また存在を許して下さっているご目的を今一度、確認する必要を覚えています。

限られた中では誤解を受けることも覚悟しつつ、けれども多くの事象が終末の様相を呈する今、明確にしておくべき幾つかのことを再確認いたしましょう。

しばしば独り歩きしがちな「聖と宣」、「創群のスピリット」、「創設者のヴィジョン」といった表現を、私たちはどれだけ正確に把握しているでしょうか。主が戦後の何もない中で、「聖と宣」の使命を与えられとき、私たちに何を託されたのでしょうか。

第一に、そして基本的にそれは「聖書的ホーリネスの宣証」といえるでしょう。「聖書的」とは、▽単なる立場上の「教理的ホーリネス」ではなく、▽繋がりとしての「教派的ホーリネス」でもなく、▽個人と群れの証を伴う「実践的ホーリネス」のことであって、その目的のために、「在来のすべての行き掛りを捨て」ることを選択したのです。分裂、内紛、妥協……しつつの「ホーリネス」とは一線を画す、という姿勢を明確にしました。それゆえにしばらくの間「独善的である」とか、「お高く留まっている」という批判を甘受し、目的に専念したのです。

しかし、与えられた目的の達成のためには、超教派の協力も惜しみませんでした。ビリー・グラハム国際大会の激務が創設者の地上の奉仕の期間を、結果として縮める一因にはなりましたが、それゆえに力をセーブすることは、よしとはしませんでした。

「宣教」とはしたがって、聖書的ホーリネスの証をあまねく全世界に宣べ伝える働きであり、国内に、世界にその証人を置くことを目指してきました。「自給」とは、自分の教会が何とかやっていける状態を目指すことではなく、群としての使命を果たす必要を、教会が生み出していくことを意味しています。「自育」の働きである聖宣神学院は、ホーリネスの宣証の働きを担う器を育成する目的に特化された教育機関でした。

教団創設の「柱」であり、海外宣教の開始に関わられたのが信徒であった長谷川正子医師であったこと、農耕部や本部の実務を担われた渡辺倉造勧士、印刷局の責任を担われた西村輝二勧士、開拓宣教資金献金を提唱された國光孝史代議員をはじめ、その目的のために教団の働きの中心を信徒の方々が初めから担って下さっていたのも、教団の特色でした。

創立記念日にあたり、私たちは自らと教会の置かれている意味を今一度、主の前に確認させて頂き、次の世代にバトンを託す機会としたいものです。

目次

創群の目的の再確認……蔦田直毅……1
宗教改革500年、選挙公報、出版事業部から……2
國光幾代子先生追憶、教団運営委員会、九州聖会……3
海外トピックス、国内局コラム、燭台……4
関東南ブロック近況と祈り、フィリピン宣教訪問団……5
広げた翼……6～8
聖宣神学院報……9～11
公報、消息……12

Immanuel

宗教改革とは何だったのか？

1517年→2017年

マルティン・ルターによる

宗教改革500年

教団代表　藤本　満

今から五百年前、一五一七年一〇月末、マルチン・ルターによる「九五条の提題」という一枚の文書によって、宗教改革の火ぶたは切って落とされました。この文章は二週間ほどでヨーロッパを駆け巡りました。

この一枚の文書は、当時盛んに売られていた贖宥状（免罪符）に抗議するものです。贖宥状とは、なんでしょう？

よく中世後期の思想はその建造物であるゴシック建築になぞらえます。地上における人の理性、その上に加えられた恵みが一体となり、人の努力は神の恵みによって美徳と変えられ、人の努力と神の恵みが調和をなして天高くそびえ立っていきます。

信仰者は救いを得るために、聖餐や悔悛のサクラメントの助けを借り、価値ある功績を獲得し、神はこの功績に報いることで人を救いに入れてくださいます。

この救いのプロセスの中で最もやっかいなのが「悔悛のサクラメント」でした。人が罪の呵責に心打たれたら、礼拝堂ある告解室を訪れ、司祭に罪を告白します。司祭はキリストに代わって罪の赦しを宣言します。と同時に、そうそう同じ罪を繰り返すことのないように、「償いの行為」が課せられました。小さな罪なら、主の祈りを百回唱えればいいのでしょう。

ところがおおよその罪は償いきれないのです。すると、死んだ後に煉獄が待っています。罪が大きければそこでの苦しみの期間が長くなります。

では、地上で果たせない償罪を免れる方法はないのでしょうか？カトリック教会は、「ある」と言いました。たとえば、十字軍への参加です。礼拝堂に祭壇画をささげることです。でも、そのような代償を誰もが払える訳ではありません。

時代は貨幣文化でした。ここで考えられたのが「贖宥状」の販売でした。おりしも、ローマ教皇庁は財政難です。ルネサンスの芸術家を抱え、バチカンの聖堂を修復しなければなりません。加えて、人々は迫り来るペストによる死におびえていました。

グーテンベルクの印刷技術はまずここで活躍します。大量の贖宥状が印刷されます。こうして活版印刷で作られた贖宥状が飛ぶように売れます。

宗教改革は、この贖宥状に対する反対運動として始まります。そしてルターには神学的な根拠がありました。九五箇条の提題の一番目に挙げられているのは、「悔い改め」についてです。悔い改めとは、個々の罪を悔いて、告白聴聞室で赦免をいただき、贖宥状を購入して償いに当てるという程度のことなのかとルターは問います。

悔い改めとは自らの存在の罪深さに心打たれて、いかなる善行をもってしても償いきれない、罪に対する全的「無力」、そして自己義に平安など到底見いだせないという「絶望」であると。

すると信仰とは、どのようなものでしょう。それは、「乞食の手である」と。乞食のように空っぽの手を差し出して、キリストの義を贈り物として受け取るだけである。これがルターによる福音の再発見でした。

「このことは直ちに、自分が生まれ変わったかのように、また開かれた門を通って天国そのものに入ったかのようにわたしに感じさせた。その瞬間から聖書全体の顔つきが違った光の中でわたしに立ち現れた」。

こうして、福音を中心に理解され直した「聖書」というものが、ルターの心を捉えました。聖書全体の顔つきが「キリストの十字架と復活」という視点から輝きを放ちました。

聖書全体が光の中で私に立ち現れた――そう言えるプロテスタント教徒でありたい、と願います。二度と来ない五〇〇周年の年に。

選挙管理委員会から

これからの選挙日程

委員長　松井元始

明春の第21次総会に向けて、代議員選出と代表予備選挙の今後の流れについてご案内します。

●信徒代議員選出

各教区から選出された総会信徒代議員24名には、個別に通知すると共に、11月号の教報紙上でその氏名を公告いたします。

●教職代議員選出

ご返送いただいた投票用紙は、9月22日に開票しました。地方区選出12名、全国区選出12名、計24名の教職代議員には個別に通知すると共に、11月号の教報紙上でその氏名を公告いたします。

●代表予備選挙

現代表は2期6年を満了、任期制限のために被選挙権はありません。選出された教職代議員、ならびに職責上の教職代議員の中で、明年の4月1日に68歳を越えない者を被選挙権者として、代表候補者3名を選出する予備選挙を実施します。この投票には在職2年以上の全教役者が参加することになっています（但し、引退、休職、休養、教団外派遣の者を除く）。投票用紙は10月31日（火）に発送し、開票は12月5日（火）に行います。上位3名を代表候補者とし、氏名、プロフィールを明年1月号の教報紙上で公告いたします。

出版事業部から……

お待たせしました新しい聖書が

去る9月8日、今年の出版部全体部会があり、今後の書籍の発行予定などが話し合われました。

この秋には「岩から出る蜜」を再版予定です。来年に向けてのディボーションにご活用ください。また、在庫が少なくなりました「キリスト者の完全」をソフトカバーにし、現行より若干安い値段での発売を予定しています。

今年末には兼ねてより希望がありました少年文庫「カテキズム」を改訂し出版する予定です。読みやすくなり、引照も新聖書を使います。ぜひ、グループでの学び等に用いてください。

聖書通読の助けとして「わが足のともしび」がありましたが、これと同じような形式で「わが道の光」（仮題）を準備しています。その他、新来会者に手軽にプレゼントできるような書籍、また受洗前後に学ぶことができる冊子（トラストシリーズを基礎にしたもの）なども企画しています。

新しい聖書は順調に発行の準備ができ、中型は間もなくお手元に届きます。出版の働きのためにもお祈りください。

出版事業部　川村和臣

追憶

故國光幾代子先生

2017年8月17日ご召天（享年98歳）

國光幾代子先生は、1919年（大正8年）2月10日に岡山県で三姉妹のご長女として誕生。女学校2年でお父様の転職に伴い、東京に転居。女学校卒業後大蔵省で6年間勤務されました。その頃、ご家族の中で先ずお母様が教会に導かれて信仰を持たれますが、幾代子先生は反発をしておられました。しかしお母様の愛読する聖書のみことばを通して偏見が砕かれ、1935年6月20日の特伝で信仰に導かれます。同年8月25日に受洗。16歳の夏でした。

第二次大戦後、救世軍「子どもの家・機恵子寮」で働いているときに召命の御声を聞き、創立間もないイムマヌエルに導かれ、初代総理蔦田二雄師の霊的な導きに触れて献身。1945年第1期生として聖宣神学院に入学されます。卒業後、丸ノ内教会（後の主都中央、中目黒）に派遣され、教会で特に婦人会を担当、多くの方を主に導かれ、またご自宅を雪谷伝道所として開放して伝道されました。また、蔦田初代院長の信頼を受けて、神学院女子寮監として数十年の長きに亘り、女子神学生方を愛し、養い育てられました。そして卒業後も、派遣された女性牧師方のことを重荷として祈り支え、折々に女性牧師の担当する教会を訪問しては励まし続けました。

2003年に女子寮監の再任命を受けられました。2007年88歳で公的な務めからは退かれますが、その後も北八朔町に住まわれ、神学院教会で良き働きを担われると共に、全国から来訪する方々を迎えてケアし続けられました。

今年春頃までは、加齢に伴う目の不自由さ以外は元気で過ごされましたが、初夏に不調を覚えてご入院。2017年8月17日未明、信仰と献身の良き模範を残して天の御国へと凱旋されました。98年半の地上生涯、82年の信仰生涯でした（コロサイ一・27）。

（小川宣嗣・記）

教団運営委員会から……

第二次総会の組織改革へ向けて

広報　川嶋直行

9月11日、12日、本部会議室で教団運営委員会が開かれました。会議の冒頭、内山勝国内宣教局長により、第二ヨハネ12節が開かれ「顔と顔と合わせて語り合うコミュニケーションを大切にして行きましょう」とお勧めがありました。今回の運営委員会の主な議題は、組織検討タスクフォースが纏めた答申を受けて、教団運営委員会として、来年3月3日（土）に行われる第二一次総会に提出する組織改革の条例改正案を検討、決定するということでした。

BA制度については、現行の体制を継続することと共に、地方教会と教団執行部の意思疎通をさらに良くする体制を検討してゆくための特別検討委員会を、次期総会期に設置することが提言されました。厚生委員会の委員長と財務委員会の委員長については、アンケート結果を受けて「信徒でも牧師でも、どちらでも担える体制にする」ことが提案されました。いずれにしても、委員会制度なので、委員長が独断で決定することはなく、物事は合議で決せられる旨、確認されました。

また、信徒運営委員が代表就任の按手に加わることが妥当かどうか、議論されました。按手には「権威を授けること」「職に信任すること」「祝福を祈ること」の三つの要素が含まれ、信徒が按手に加わることは神学的には何ら問題はありませんが、インマヌエル綜合伝道団の伝統文化を尊重し、代表が最終決定することとなりました。タスクフォースの答申案を基にした改正案については、アンケート結果の分析と共に、教団運営委員会便りでお知らせします。

教団の公用讃美歌である「インマヌエル讃美歌」の在庫の残りが少なくなり、版権を維持するために、パソコンソフトに組み入れる可能性などが検討されました。BTCのメンテナンス工事の追加予算150万円が承認されました。今後、本館屋根工事、本館チャペル明かり窓の部位の取り壊し工事が必要となります。シニアコース卒業者の教職試験受験資格について、年齢を鑑みて卒業後2年に短縮するとともに、面接や口頭試問が付され試験を厳格化することや、夫人牧師の場合、子育て等の事情に配慮して、試験期間を原則1年としつつ、延長を可とすることが検討されました。

来年の第二一次総会に向けての準備が祝され、良き総会となりますよう、お祈りをお願いします。

九州聖会の恵み

藤本満先生を迎えて

「主イエスについていく」信仰と献身と

佐賀教会　阪下謙

九州聖会は8月15日～17日まで、阿蘇の司ビラパークホテルを会場に開催され、講師には教団代表の藤本満師をお迎えしました。

「主イエスについていく」をテーマにメッセージが語られ、参加者一同たくさんの恵みをいただきました。それぞれの信仰と、献身の更新がなされる幸いな時となりました。また、三回の聖会のほかに、各部会や分科会など他の教会の愛兄姉との交わり、分かち合いの時も多くあり感謝でした。参加者は155名でした。

海外トピックス

■「信教の自由」報告書を米国務省が発表

米国務省は8月15日、米国を除く世界199の国と地域の信教の自由（宗教的自由）に関する2016年版報告書を発表。信教の自由が侵害されているとして中国とイラン、サウジアラビア、トルコ、バーレーン、パキスタン、スーダンを「信教の自由を否定している」国と名指した。ティラーソン長官は世界で80％の人がまだ信教の自由を享受できていないと指摘し、「トランプ政権は問題改善に取り組んでいる」と述べた。報告書の発表はトランプ政権が発足後初。

中国について「政府が多くの人々を信仰の実践を理由に拷問、拘留、投獄している」と非難。またチベット、新疆ウイグル両自治区での宗教活動の規制強化に懸念を示した。北朝鮮については、金正恩朝鮮労働党委員長が「深刻な人権侵害や検閲に関与している」と指摘。脱北者を支援していた中国吉林省の牧師は、北朝鮮の工作員に殺害されたとの報道を紹介。ほかにも北朝鮮で外国人が拘束された事例を挙げた。過激派組織『イスラム国』については、自らの支配地域で少数教派のヤジド派、キリスト者、イスラム教シーア派住民の大量虐殺や「人道に対する罪」「民族浄化」に携わっていると指摘。イスラム教スンニ派やクルド人などの少数派も攻撃の対象にしているとし、「こうしたグループの保護はトランプ政権の人権政策の優先課題だ」と強調した。

■ミャンマーのロヒンギャ迫害でツツ元大主教がスーチー氏批判

1984年のノーベル平和賞受賞者、南アフリカのデズモンド・ツツ元大主教が9月8日、ミャンマーでのイスラム系少数民族ロヒンギャ迫害問題をめぐり、アウンサン・スーチー国家顧問を批判する公開書簡を発表した。

時事通信によると、ツツ元大主教はスーチー氏に対し、「あなたは正しさの象徴だった」とした上で、「あなたがミャンマーの最高の地位に昇進する政治的代償が沈黙であるならば、その代償はあまりに高価だ」と指摘。「あなたが正義、人権、国民の団結のために声を上げることを願う。あなたがエスカレートする危機に介入し、国民を正しい道に引き戻すことを願う」と呼び掛けた。（平瀬聡樹）

国内教会局から

新約の諸教会再訪

次の世代にバトンを託す

運動会の季節。最後の種目は定番のリレー。相当の迫力です。バトンを渡す時の技術がものを言います。

福音宣証の働きにもバトンを渡す時がきます。そしてその舞台はいつでも教会です。

さてエペソを舞台としたバトンタッチをテモテの手紙に見ます。バトンを託す時に、激励しつつ（1テモテ一・18）、丁寧に（三・14～16）、急所を繰り返すようにして（五・21他）、健全な教えを渡すのです。そして教会という競技場の中で多くの証人たちの見守る中、福音は、永遠のいのちは次の走者に託されて行きます（1テモテ六・12）。エペソ教会も使徒パウロからテモテへバトンは渡され、教会の言い伝えではその後使徒ヨハネ、ポリュカルポス、エイレナイオスとバトンは渡されて行きました。

人も場所も変わりますがキリストのからだなる教会は今も継承の舞台として健全な福音の証人です。

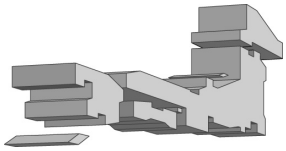
（蔦田崇志）

燭台

資質と、資格と

●過日、ラジオのインタビュー番組で、国連で働いた方の話を聴きました。その中で幾つかのことが心に留まりました。備えるべき資質と資格に関する内容でしたが、考えてみると信仰者として、伝道者としてのそれと重なるものがあるように思ったからです。国連の職員が持つべき倫理観、価値観として、私利私欲に基づいて行動しないこと、あるいは権力を乱用しないこと。専門性を持つこと。そしてたとえ困難があってもやり通すことであり、ストレスがあっても冷静であること等でした。また、多様性を尊重して、差別をしないこと。さまざまな背景があり、多民族、多文化などを理解し尊重する在り方でした。●教会に当てはめるとき、一人ひとりが育った背景は異なり、個性があり、賜物が違います。教会員の多様性を理解して受け止め、差別せず、尊重することは本当に大切なことだ思いました。●そして、能力として必要なことは、コミュニケーション力、チームワーク力、責任ある行動をとること。そのためには、ルールを守り、計画性を持ち、優先順位をつけて進め、成果を出すこと等が語られていました。何よりも、相手の立場に立って必要に基づいた解決方法を探り、そのためには創造性が求められること。リーダーには戦略的洞察力、ビジョン、分担して仕事をする能力、時には不人気であっても勇気をもって行動する力も必要とされること。また、伝統的なアプローチに固執しないで、積極的に学んでいくことも大切であるとも。●国連とは、と尋ねられたとき、その方は「地球人として苦境にある人々を助け、紛争を平和的に解決していくことが使命である」と答えられました。任地では実際に薬物中毒で脳の中枢をやられ、わずか25歳で廃人となった青年に会う経験をされたそうです。●私たちもまた神さまからこの世界に遣わされ、罪のために人生に行き詰まり、悩みの中にある方々に福音を伝える使命を託されています。その為に必要な要素とはと考える時、もちろんさまざまな資格や能力が身についていることも大切ですが、聖霊によって全くきよめられた資質を内側に持つことだと思いました。どこに置かれても生涯ぶれないで、使命を全うするために。（高梨恂子）

国内教会局スクエア



関東南ブロックの近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー　蔦田 崇志

関東南ブロックのために尊いお祈りをいただき、主にあって御礼申し上げます。今年も猛暑を越えるまで3教区の諸教会は導かれて参りました。

＊

神奈川教区（教区主事・徳竹信雄師）では、国光幾代子先生を天にお送りしました（神学院教会）。来年に向けて横浜教会では伝道サポートシステムを活用しての取り組みを教区挙げて進めています。韮山教会はホワイト宣教師（5月）やマッツ宣教師（9月）を迎えて特集を組み、クリスマスには三森元宣教師を迎えます。桂町教会・高津教会は共に牧者が教団内外の御聖務に追われています。心身ともに守られますようお祈りください。湘南中央教会も新たな求道者・CS生を求めて取り組んでいます。また今年11月23日には教区の催しとして役員・リーダー研修会を開催予定です（河村従彦師）。

東京教区（教区主事・岩上敬人師）は中目黒教会に梅田先生ご夫妻をお迎えして新しい歩みを始めております。白鳥教会はインターン生を迎えました。富士見台教会は各種コンサートを開催、伝道の働きを展開しています。武蔵村山教会も岩上敬人先生をお迎えして2年目、今年は牧師が主事を担い多忙の中におられますが、祈りのうちに前進を許されています。立川教会は東隣接地牧師館が与えられました。深川教会は「練られた品性が希望を生み出す」をテーマに、山梨県の甲府・鰍沢教会も共に前進を続けております。八王子・王子教会は6月に交換講壇を実施しました。板橋教会はマッツ宣教師、ホワイト宣教師を迎えての特集を組みました。

今次年会において異動の多かった東関東教区（教区主事・宮崎聖輝師）も夏までの歩みを守られて参りました。水戸教会は阪下昇先生が退職され、新たに阪下美栄子先生を迎えました。新しい体制での歩みのためにお祈りください。市川教会は植木先生ご夫妻をお迎えし、新浜教会も佐藤信行先生が兼牧、竿代照夫先生ご夫妻が協力牧師として加わって下さっております。4月には長年の祈りが応えられて、船橋教会（林正弘先生）が献堂式を執り行い「コミュニティー・チャペル」と「バイブル・センター」の二棟が献げられ、主の栄光を拝しました。長谷美代子先生（安食教会）は8月28日に8時間を超える手術を受けなさいました。なお、治療が続いておりますのでお祈りください。安食教会は島田貴子先生を中心にこの試みの中、進んでおります。神栖教会（蔦田敬子先生・善子先生）は40周年記念の年を迎えて刷新の年となるように取り組んでいます。館山教会（斎藤園子先生・義信先生）も真実な伝道を継続しつつ、教会近隣から求道者が与えられることを祈り求めています。松戸教会（北田直人先生ご夫妻）では交換講壇を今年も実施しています。高根教会（井川正一郎先生）では継続出席中の求道者の救い、また家族伝道にも結実を祈り求めています。千葉教会（田辺岩雄先生ご夫妻）ではJキッズ、Jジュニアを開催、子どもたちの働きに結実を望んでいます。木更津教会（宮崎聖輝先生ご夫妻）は会堂返済の最終年を迎え、ここまでの主の御助けを感謝しています。

なお東関東教区では9月に聖会を開催（ホーリネス教団、中西雅裕師）、東京・神奈川は8月に合同で林間聖会（藤本満代表）をお茶の水で開催致しました。次年は久しぶりに東山荘にて開催予定です。引き続きお祈りのほど、宜しくお願い申し上げます。

フィリピン宣教訪問団報告……

交わりを満喫しました
証しと奉仕と絆と

王寺教会　田辺寿雄

フィリピン宣教訪問団は8月22日から30日までの9日間、計12名（10名は青年）が参加しました。

最初の4日間はロザリスに滞在、女子寮のペンキ塗りや神学校のチャペルでご奉仕をしました。雨季のために毎日雨が降り、その分思ったよりも涼しかったです。豚の丸焼きはじめ、肉、魚、野菜、果物と毎食お腹一杯頂きました。神学校の先生と神学生たちは、私たちを大歓迎してくださいました。ある夕食では、私たちが日本のカレーを料理し、一緒に食べて大変盛り上がりました。その食材を自分たちで自転車タクシーに乗り、市場で買って来たのも、ちょっとした冒険でした。

土曜日には3つのグループに別れ、ロザリスから車で2～3時間の3つのウェスレアン教会（または信徒宅）で宿泊し、日曜日にはそれぞれの教会の礼拝で証しや賛美のご奉仕をしました。教会堂で牧師と一緒に雑魚寝したグループもありました。豊田師ご夫妻が現地の教会・牧師方に受け入れられ、教会に溶け込んで仕えておられる姿に感銘を受けました。日曜午後に、リゾート地ボリナオへ移動し、きれいなビーチとプールのあるホテルで一泊。ここで初めて晴天となり、神さまが大きなご褒美を下さったと一同で大感謝でした。最後にマニラで、戦跡ツアーに参加できたのも貴重な体験でした。

参加者はすぐに打ち解けて、強い絆を与えられ、家族のような一体感をもって過ごせました。一つひとつの奉仕や作業も、みんなで考え協力し、手作り感満載の余りにも楽しすぎる9日間でした。「すべてのことを福音のために」（Ⅰコリント九・23）を地で行く豊田家と、食事やミーティングに使った「クボ」と呼ばれる小屋。どちらも心地よく私たちを包み込み、ゆっくりとした時・恵みの流れを体験させてくれました。

広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

http://www.immanuel.or.jp/world/

世界宣教局

巻頭言

収穫の主に祈ること

世界宣教局長
梅田 登志枝

「収穫は多いが働き手が少ない。だから、収穫の主に働き手を送ってくださるように祈りなさい」（マタイ一〇章37～38節）

自然界は収穫の季節を迎えました。各教会においてもクリスマスに向けて、収穫の主を見上げつつ、福音宣教の働きが進められていることでしょう。主イエスさまは、十字架にかかり三日後に甦り、多くの場所で弟子たちに顕現された後、天に帰って行こうとしておられました。その時、主は何をご覧になったのでしょうか？

まず、福音を必要としている人々の存在です。羊飼いから迷い出てしまった羊のように、疲れ、渇ききった人々の存在を主は見ておられました。それは、選民イスラエルだけでなく、福音から除外されていると思われていた異邦人の姿もです。私たちは身近な人々に福音を伝えるとともに、自分から遠いと思える人々のための宣教にも関わることが求められています。それが主ご自身の、また弟子たちの宣教だったからです。地理的なことだけでなく、あらゆる距離を超えて届けられるのが福音であることを忘れたくありません。

次に主イエスさまがご覧になったのは無力な弟子たちの姿です。「イエスにお会いしたとき、彼らは礼拝した。しかし、ある者は疑った」（マタイ二八章17節）とマタイは記録しています。甦りの主にお会いしてもなお疑っている弟子がいたのです。弟子の多くはガリラヤの普通の人々でした。主を裏切ったユダ、主を否認したペテロ、疑い深いトマスなど、弱さと無力さを抱えた弟子たちの姿です。主は弟子でありながらも人としてのたくさんの欠けと弱さを持つ弟子たちをよくご存知でした。

最後に、主イエスさまが見ておられたのはやがて聖霊に満たされ、大胆に宣教に用いられる弟子たちの姿です。今日も多くの人々が福音を必要としているにもかかわらず、福音に携わる人が不足していること、また弱さや欠けを、あるいは健康や年齢による課題を抱えていることも主はご存知です。けれどもまた、主はこの先に御霊による大いなる働きがあることもご覧になっていることを信じましょう。

御霊に明け渡し、主の助けをいただきながら、福音宣教に真摯に取り組むならば、聖霊は今の時代と人々に相応しくお働きくださると信じたいものです。

PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子＊2017年9月7日

私たちが宣教師になって2回目の宣教訪問団（12名）を活動拠点とするパンガシナン州ロザリス市フィリピン・ウェスレアン大学に迎えることが出来ました。前回の訪問団では台風到来に伴いフィリピンへの到着は1日遅れとなってしまいましたが、今回は台風を訪問団が到着する前日に通過させ、宣教訪問団を無事に到着させて下さいました。その後土曜日の夜までほとんど雨天となりましたが、このことによって訪問団は女子寮の2階のペンキ塗り作業、そしてロザリスでの生活を暑さをあまり気にせずに過ごすことができました。残念ながら、最後の最後に1人だけ病人が出てしまいましたが、快方へと向かい、何とか皆さんと日本に帰国することができました。この訪問団の滞在中、日本の教会の皆さまの祈りをひしひしと感じられた9日間となりました。ありがとうございました。

ロザリスに到着した翌朝（水曜日）には、女子寮のペンキ塗りに取り掛かりました。夜には学校の先生方が夕食を兼ね歓迎会を開いてくださり、豚の丸焼き（レチョン）を振る舞って温かく歓迎してくださいました。木曜日の午前のチャペルでは、日本の文化やクリスチャンをクイズ形式で紹介、現地のことば（イロカノ語）、日本語、英語で覚えた「主われを愛す」をみんなで歌ったり、2人のメンバーが英語で証しをし、そして田辺先生が「神は人の心をみる」と題して説教をしてくださいました。学校からは記念のTシャツを頂き、メンバーたちからも日本から持って来たお土産を学生たちや先生方に手渡しました。

金曜日の朝食後は宣教訪問団による「はじめてのお遣い@ロザリス市場」と題し、午後に作るカレーライスの材料を買うために、宣教師の助け無しでメンバーたちだけで市場に買い物に出かけました。中には交渉して値引きに成功したメンバーもいました。

買い物のあとには、学校で文化の日を祝う催し物に参加しました。学生たちがタガログ語で詩の暗唱、民謡、伝統的な部族ダンスなどを披露し、部族ダンスにはメンバーが招かれ参加することもありました。催し物の見学の後には、夕食で学生たちと先生たちにカレーライスをご馳走するために普段学生たちが使用する台所で炊き出しをしました。

土曜日の午前にはペンキ塗を終

え、午後には日曜日の地域教会での奉仕のためにロザリスから60㎞離れたボリナオに向かいました。3教会に男子1組と女子2組に別れ、それぞれのメンバーは土曜日の夜から教会、あるいは信徒の方の家にホームステイをさせて頂きました。翌日には教会で証し、讃美、説教などを通して奉仕をしました。メンバーは教会のみなさんに温かく迎えていただきながら、短い滞在とその働きを祝福に満たされながら終えることができました。教会の皆さんとの別れ際には涙するメンバーもいました。火曜日には帰国に備えマニラに向け出発。マニラでは市内観光をし、世界遺産や戦跡を訪問し、フィリピンの歴史・文化を学ぶよい機会となりました。9日間という短い期間でしたが、メンバーひとりひとりが神様からの語りかけに耳を傾け、答えるときとなったことを信じてやみません。■

CAMBODIA

カンボジア

蔦田緑乃＊2017年9月1日

「彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上にささげ、聖徒たちを支える交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。…この恵みのわざにも富むようになってください。」

（Ⅱコリント八章1～7節）

パウロがコリント教会に奨励した「ささげる恵みに富む」者として成長を励ました言葉はそのまま今日の日本の教会にも語られている主ご自身からのみことばであることを頷きながら今月もカンボジアの宣教の働きを支えて下さる諸教会に感謝と共に報告と祈りの課題をお届けしたいと思います。

8月号の報告に、「受けるよりは与えるほうが幸いである」ことが福音の本質であるという伝道者へのチャレンジが語られたカンボジアの宣教状況をお伝えしながら、本部や責任者の住居、宣教師館が与えられたKCCの伝道者達が、生きて在す神の御手の御業を体験した事を報告しましたが、その後、現地の働きがどのように進められているか、スカイプやメールでのコンタクトを取り続けながら祈りをもって共に労する日々です。彼らの報告によりますと8月にはプノンペン市内と地方の伝道者の合同牧師会を開催、霊的、実践的両面からの訓練が続けられていること、またグレッグ宣教師の開拓教会（PCC）の会場の移転先としてよき場所が備えられ、少しずつ自立の教会建設の態勢が見えていることを感じ御名を崇めました。目にみえる拠り所となりやい宣教師がいないことも彼らの自立の信仰のために必要であることを頷きつつ、当分この体制で進めてゆくことが望ましいことを頷かせられています。その様な中、米国から単立宣教師として主にヴァンディー師と協力しておられるマーク宣教師が短期（8月末から11月初めまで）の報告帰国となり、ヴァンディー師は教会での弟子訓練に集中、彼らを伝道の働き人として生み出すことに専念しております。いま2人の青年が訓練と学びの中にあり、その内の1人、コサール兄は霊的に優れた賜物を与えられているとのこと、お祈りください。ある村で偶像礼拝をしている女性を見ていた彼に「そこから離れて行け」と言われ、悪霊に恐れられていることを確認したとのこと。教会に新しい人をつれてきますが、御霊による勇気と知恵が与えられて魂を主に導ける程に成長するようお祈りください。■

TAIWAN

台　湾

平瀬義樹･光世＊2017年9月6日

いつも背後にありまして、尊いお祈りと温かいご支援を感謝します。今夏は、宣教報告の機会が与えられましたことを心より感謝申し上げます。1か月半という短い時間的な制約のある中でしたが、11の教会と1聖会を訪れることが許され、感謝と共に、台湾における主の御業の一端を分かち合うときが与えられました。報告会や分科会などで出された質問、「なぜ親日なのですか?」「台湾と中国の違いを知りたい。」などを通して、背後で強い関心を持っておられることがよくわかりました。また集会後の交わりの中で出た言葉、「台湾で生活をして困ったことは?」「健康保険はありますか?」「子女の教育について教えてください」などを通して、私共宣教師一家を覚えて、よく祈ってくださっていることがひしひしと伝わってきました。巡回報告を終え、私共は、8月29日早朝にミサイル通過で、交通機関に多少の乱れがありましたが、予定通り、台湾に再赴することができました。秋の気配を感じる日本からまだまだ夏真っ盛りの台湾へ、まとわり着くような湿気と漢方の入り混じった特有のにおいが私たちを迎えてくれました。

教会では、留守を懸命に守ってくださった愛兄姉方が首を長くして私共の帰国を待っておられました。子どもたちは、帰国翌日から学校に復帰し、明里は第2学年の新学期、勝大は2学期を迎えています。子どもたちにとっても今夏の巡回は大きな恵みでした。こちらに戻る帰途、今夏の印象的なことベスト3は?との問いに、③新会堂（山口教会の）を見ることができたこと。②3年ぶりに（初めて）従兄弟たちに会えたこと。①「とにキャン」に参加でき、同世代のクリスチャンの仲間と思いっきり賛美し、存分に語りあえたことでした。背後のお祈りとご支援を心より感謝します。■

ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子＊2017年9月4日

宣教師館建設の電気配線のことで大きな進展がありました。たまたま診察した患者が現在進行中のコミュニティーの電線配線を行っている方で、私たちの家のことを気にかけてくださり、今回の電線配線に私たちの家も行ってくれるよう電気会社に話をしてくださり、奇跡的に配線できるように掛け合ってくれました。内装の方でも進展がありました。隣町から来ている大工が何度か来て作業をしてくれていましたが、前回の訪問から2か月以上来ることができませんでしたが、今回やっと来ることができ、最後の仕上げに取り掛かってくれました。あとは建築士が最後の内装仕上げに来てもらうのを待っているところです。防犯ライトの設置もまだなので、そのことも今後の課題です。

8月も終わりに向かっている頃に事件が起きました。ジェンボのコミュニティーが電気代滞納のため、電気が止められたのです。一人ひとりの使用料に応じての支払いではなく、決められた代金をコミュニティーで分配して支払う方法をとっているのですが、中には不公平だと主張する滞納者がおり、必要金額を支払えていませんでした。何度か電気会社から督促は受けていたようですが、今日まで滞納し続け、ついに電気が止められました。家だけでなくクリニックにも影響が及び、冷蔵庫に保管してあるワクチンや薬だけでなく、ポンプが止まり水がない状態となりました。翌日、集金係が1軒1軒まわり、なんとか指定された額を集められ、約36時間後に電気が繋げられました。■

KENYA

ケニア・テヌウェク

蔦田就子＊2017年9月6日

8月8日の選挙のため、お祈り頂き、ありがとうございました。選挙前に政治集会の後で与野党の支持者が衝突するなど、ナイロビやテヌウェックからそれほど遠くないキスムの町などで時々単発的な衝突はありましたが、選挙当日も結果発表後も、以前のような全国規模の衝突には至らず、投票日後の礼拝は、「感謝」がたくさん捧げられました。そのように多少の警戒は継続しながらもほっとしていた中、現地での協力団体であるアフリカ・ゴスペルチャーチのM牧師が混乱に巻き込まれ、惨殺されてテヌウェック病院に運ばれるという事件が起こり、大きな衝撃を受けています。M牧師はメディア局でも長年奉仕されていた先生で、アフリカ・ゴスペルチャーチのスポークスマンでもあり、多くのメディアを通して福音を伝えておられた先生でした。選挙のほうは、落選側から最高裁判所に選挙結果の異議申し立てがなされ、9月1日に判決が発表されました。前回の選挙では「問題なし」としてそのままの結果となりましたが、今回は「問題あり」として選挙のやり直しを60日以内にするように、という判決が下されました。このような判決はアフリカでは初めてです。結果を祝う側、不服に思う側、早速ナイロビなどで大規模な衝突がおこりましたが、なんとか今は、おさまっています。次の再選挙は10月17日です。

日本からの小包、ありがとうございます。慢性的な医療物資の不足は続いており、患者さんの過密な中、包帯の消費も多く、手持ちが少なくなってきたとき、丁度物資が届きました。主の御名を崇めている次第です。なお続けてお祈りください。■

■会計報告8月分

宣教献金　一、四二七、二五七円
月平均　二、〇〇八、四〇九円

お祈りの課題

カンボジア（蔦田緑乃）

◆伝道者の救霊の実が実る御霊の御働きと、弟子訓練にあるコサール兄、チャイ兄のため

◆マーク宣教師の鎖骨骨折の快癒と、米国での報告ミニストリーに御霊の御臨在祝福を

◆本部、その他の建設地と工事の全てに主の御目が注がれ、無事に完成を見るまで見守りを

ザンビア（富澤）

◆巡回の祝福のために

◆ザンビアで一人の根廻宣教師のために

◆健康が支えられるように

ザンビア（根廻）

◆働き・人との交わりを通して主の栄光が現れるように

◆心身の健康が守られるように

◆事故や事件から守られるように

香港（鹿島）

◆牧師を含め教会員の霊肉が支えられますように

◆2年目に入った広州（番禺）での働きのため

◆香港社会の平和と良い日中関係が保たれますように

ケニア（蔦田就子）

◆選挙後も全国的な混乱から守られている感謝

◆M牧師のご家族や関係者の方々に上よりの慰めと助けがあるように

◆10月17日再選予定の大統領選挙及び関連の活動が平和裏に行われるように

台湾（平瀬）

◆通常の営みに戻った台中教会と台南日本語集会の祝福のため

◆新学年度を迎えた子どもたちの学校生活と健康のみ守りのため

◆台湾を取り巻く複雑な国際情勢の中、台湾の政治や経済、治安が安定するように

フィリピン（豊田）

◆新校長アレックス先生のリーダーシップのために。学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られ、学びと訓練に励むことができるように

◆神学教育の働きのために。今学期は常喜が『ウェスレー神学』『ダニエル書・黙示録』を教えています

◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのために（恭子の出産後の経過）

東京國際教会（蔦田康毅・由理）

◆8年間の東京國際基督教会における華人宣教が守られた感謝

◆今後の東京國際基督教会の歩みの祝福、特に日本語関係の働きが正しく導かれるように

◆巡回のために、霊肉や生活が整えられるように

聖宣神学院報

Immanuel Bible Training College

過去は大切にし過ぎないほうがいい

院長●河村 従彦

「この宮に、昼も夜も御目を開いて……、祈りを聞いてください」（Ⅱ歴代誌六・20）

神殿の奉献式で祈ったソロモンは（20節）、なぜか微妙な揺らぎを見せます（18節）。

神さまは「十のことば」で、わたしを見える形にするなと言われました（出二〇・4）。出エジプト以来、神さまは見える家に住んだことはなく、ダビデが神さまの家を作りたいと申し出ても、それをすんなりとは受けられませんでした。民が王国をほしいと願い出たときは、自分が直接治めればよいと言われました。このような流れを見れば、奉献式の微妙な空気感もわからないでもありません。

祈りは見えません。祈る対象も見えません。ソロモンは「祈りを」と言って、見えるものが完成したからこそ見えないものに目を向けようとしたのかもしれません。

信仰とは、見えないものを見える形にしないことです。見えない神さまを見える形にすることを偶像崇拝といいます。ご神体を拝まなくても、才能、学歴、奉仕の結果、数字、建物、家柄、群れの理念など、見えるものが見えないものより大切になれば同じです。スピリットや霊性も、過去から学んだだけのものは、見えるものの模倣に過ぎない可能性があります。

将来は形になっていないので、見えません。しかし、過去は形になっていて、見えます。ですから過去を大切にすると、見えないものから心が離れます。神さまの恵み、祝福、栄光、信仰の遺産も、過去に属するという意味で見えるものであり、大切にしすぎると、逆に大切なものを失います。生きた信仰は、見えていない将来に向きます。見えるものに頼りたい人情に見切りをつけ、見えないから頼りにするのです。ですから、信仰には、どこかオリジナルの味わいがあります。過去は大切すぎないほうがいいのです。

ホッと一息、改修した部分を見ながら、見える神さまの恵みと見えない信仰の厳粛さを想います。

男子寮一階　部屋を仕切る柱が立てられました

神学エッセー

キリストと文化
みことばの解き明かしの一例

宮崎 聖輝

「介抱してあげてください。」（ルカ一〇章35節）

昨日、聖日で「よきサマリヤ人」（ルカ一〇章25～37節）をとりあげました。お分かちします。

●律法家の思い違い

25節～29節には、律法の専門家とイエス様との対話が出てきます。ここで律法家は二つの思い違いをしています。ひとつめは、自分の正しさに拠り所をおき救いを獲得しようとしています。それは25節で「何をしたら、永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょう。」と質問しているところからも明らかです。ふたつめは、みことばを守り切れていると過信しています。イエス様から「それを実行しなさい」（28節）と語られたとき、彼はなおも「自分の正しさを示そうと」しました。

●見過ごす私たち

その彼に、イエス様は、サマリヤ人の譬え」を話されました。ヨセフスによるとエルサレムからエリコに下る道は実際に強盗の潜む道として有名だったようです。この危険な山道で、旅人は強盗に襲われ、傷つき、倒れます。31節～32節に祭司とレビ人が登場しますが二人とも旅人を見ながらも素通りします。これが私たちの現実ではないでしょうか。そばに支えを必要としている魂を見ながらも、忙しさに追われ、リスクを恐れ、魂を見過ごす現実に生きています。

●駆け寄る主

そこに、サマリヤ人が登場します。イエス様はこのサマリヤ人を通してご自身のことを示そうとされたのではないでしょうか。サマリヤ人は、人種的、宗教的、社会的壁を乗りこえて、傷ついた魂に駆け寄って介抱しました。またぶどう酒（祝福・命）とオリーブ油（癒し・聖霊）を惜しみなく与え、家畜の背中（自分の席）にこの歩けなくなっている旅人を乗せ、宿屋まで運びます。どの描写もイエス様の姿と重なります。

●介抱の使命が託された教会

35節でサマリヤ人は宿屋の主人にこういってから旅立ちます。「介抱してあげてください。」教会には傷ついた魂が集ってきます。なぜでしょう。それはイエス様が運んでくるからです。そしてイエス様は教会に語りかけます。「私の代わりにこの魂を介抱してくれないか」そして「もし足らなければ私があとで払う」と仰るのです。主から託される賜物を十二分に生かし、イエス様からの使命に生きる教会でありたいと思います。

◆信徒土曜講座を受講して

意味・形態を考える時

大宮教会　松岡謙之

この度、「文化がわかると見えてくる？」という講座を受講しました。聖宣神学院の講座を受講してみようと思った動機は、毎月の教報の9ページ、聖宣神学院報の記事を読んで、肩の力を抜いた生き方に魅力を感じたからです。

印象的だったマタイ二五章の記事を一つ引用します。「1タラントの人は、豊かに与えてくださった期待に応えられない自分に正直であればそれだけのことでした。おそらく『そのとおりです。すいませんでした』で十分だったはずです」。

さて今回の講座では、ものを〈意味〉と〈形態〉に分けて考えると、理解し易いということを学びました。安息日を守るという形態とその意味について、また文化的形態（土着的か西洋的か）と宗教的意味（異教的か聖書的か）という視点から信仰の形骸化について学びました。福音（信仰）について、聖書のみことばの伝わりづらさについて、更に罪の問題についても意味形態（文化）論から教えられました。意味形態論以外にも多くのことを教えられました。日本語は神さまが創造してくださったものであること。神さまは良心の源であり、その良心の機能は文化的意味、規範、価値観、理想などの影響を受け、誤りを犯しやすく、変わりやすいものであること。神さまは日本の文化を用いて私たちを判定されること等です。

また、講座の初日に伺ったことですが、講師の先生はアメリカ留学の3年間のうち、最後の1年間を文化人類学を学ぶように導かれなさったとのことです。今回の講座の内容も、その時の学びが基になっておられることかと思い、導き手なる神様の御名を崇めました。私も今後、少しは意味・形態を考えながら行動したいと願っています。

●信徒土曜講座を受講して

恵みを別の角度から眺めることができた

深川教会　山崎弘子

講座の初日に河村先生から、「皆さん、このタイトルでよく受講してくださいました。お考えをひと言聞かせてくだされば」と言われました。

私は、文化とか歴史は苦手で、それを学んでも、とも思いました。しかし今までの先生の講座は、「神さまの恵み」、「イエスさまの恵み」など、「恵み」のお話しが主題でしたので、「文化……」とのタイトルですが、そこから「恵み」の世界のお話しになることを期待して、参加したいと思いました。

講座は、文化の視点の重要性、意味形態論から、コミュニケーションと聖書、教会の本質について学ばせていただきました。

専門的で難しい部分もありましたが、私たちは文化によって影響を受けており、一人ひとり違うという基本的なことを改めて学びました。そして、聖書を解釈するとは、文脈を読んで、「意味」と「形態」を区別し、神さまのメッセージのエキスである「意味」を取り出す作業であると学びました。

「人は外の形を見、主は心を見る」（第一サムエル一六・7）。物事の本質は、人間の目からかくされていて、ほとんど分からない、神さましかわからないということで、どうしても形態に目や心が行ってしまう自分を反省させられました。

先生の講座は考える時があり、自分の考え、思い、質問を出し、そうした分かち合いを通して、また考える機会があり、とても良い時となります。

今一度、神さまは、一人ひとり違う私たちを受け入れ、愛して下さっていると深く思わされます。

これからも、主は、先生にどのような思いを授けて講座を開いて下さるか期待しております。ありがとうございました。

本館トイレ　壁を作ってスペースを区切ります

神学院創立70周年に向けて

神学院メンテナンス 第一期工事の報告

メンテナンス委員会　田中進

創立70周年に向けての構内整備について、6月の院報で展望を記しましたが、その後の具体的動きをご報告いたします。

神学生が夏期実習で不在の期間に第一期工事が完了しました。工事概要は以下の通りです。①男子寮1階の改装、2人部屋4室と1人部屋1室の設置。②本館棟男子トイレの改装、新たに男子、女子トイレの設置。③男子寮2階天井の張替と塗装（以前の雨漏りにより痛んだ部分）

今期は学院生活に直接関わる部分に絞って行いました。総費用は約1150万円となりました。このために、7月に持たれた教団運営委員会は、本部特別会計から今年度から3年間にわたって毎年500万円（計1500万円）を学院のメンテナンスのために支援することを承認しました。その配慮のゆえに、直ちに工事に着手することが許されました。

次年度は第二期工事として本館の屋根の葺き替え（現在の屋根の上に新しい屋根建材で覆う工法を検討）の他、本館の耐震を考慮し、チャペル講壇上部にあたる明り取りの塔の撤去（構造上リスクが高い部分）および屋根新設補修を計画しています。

今後の利用計画が練られている最中ですが、基本的に本館の必要最小限のメンテナンスを実施しておくことは無駄ではないと思われます。

もし可能なら、第三期工事として、100名程度の宿泊を伴う修養会やキャンプなどができるように、洗面所の改装やシャワールーム等の設置も検討されています。できれば七十周年記念の年に行われる同窓会セミナーに間に合えばと願っています。

神学院の維持管理のために引き続きお祈りをお願い致します。

私の神学生時代

我に従え

4期生●岩下孝子

56年前高校3年の時「我に従え」との御言葉で召命を頂きました。当時は高校を卒業したら献身するのが当然、と言う空気が教会の中にありました。

私の小学生時代は戦争中で集団疎開から東京へ帰った時は空襲で家を失っており、その後転々と仮住まいをする様な貧しい中でも奨学金で女学校に入学させて貰いました。その間もなく制度が変り、そのまま学校が中学、高校となったため、6年間同じ学校に在籍することになり、その高校2年の初め友人の誘いで当時の丸ノ内教会に行き、蔦田二雄先生の迫力ある説教から、今まで全く知らなかった神様の言葉にふれ、大きな刺激を受けました。神学生になられた尾崎清子先生の熱心な指導を頂き、すぐ入信し、学校の中で友人と教会の話に夢中になりました。

都立の学校としては異例であったと思いますが、放課後教室の一つを借り、数人の友人と賛美と祈りの会を持ちました。その中に当時高校生の田中敬康先生もおられました。その頃同校から延べ30～40人は丸ノ内教会に行きました。私は高校卒業と同時に他の2人の友人と共に4期生として神学院入学が許されました。故三森孝子先生と、摂理で今は仙台の教会で奉仕しておられる山本和子先生です。

家族と一緒の経験が少ない生い立ちをした私は、まず人としての躾の訓練を神学院に入ってから受けました。周りの方々には無礼で迷惑をおかけして来た事を今更恥じ、心からお詫びしたい気持です。

4期生女子は10名。その中で例の高校からの仲間の3人は、毎週日曜夜、ミッションで留守にならない限り、小さなオルガン室で膝を突き合わせて涙しながら告白と祈りを共にし、卒業の時まで3年間続きました。

蔦田二雄院長が神学院での訓練の柱と位置づけられたのが祈祷の問題だと捉えております。毎週月曜夜の半徹夜の合同祈祷会には、どんなにスケジュールが混んでいても、必ず私共神学生に祈りを訓練してくださいました。イエス様が群衆に囲まれる中でもすぐ山に逃れて座られたように、ペニエルでヤコブがひとり神の前に出て扱われたように、神様の前にひとりになることは、今も課題です。周りのすべての事柄と関係がなくなる迄は神はお語りにならない。我もなく世もなく只主のみいませり、と内住の主を現実に自覚できる様でありたいと日々祈っています。多くの御加祷のゆえに今があることを心から感謝申し上げます。

同窓生の近況

39期生

ベテル栄光キリスト教会●島津廣樹

1987年3月30日私の誕生日の日に神学院の入学試験がありました。入学が許されて伝道者生涯の一歩を踏み出してから、今年でちょうど30年になりました。

今日まで小さいご奉仕しかできませんでしたが、神さまのためにご奉仕に携わることが許されましたことは、私にとり大きな喜びであり、感謝に堪えません。

私の伝道者生涯を振り返る時、1998年の年会の時に神学院に任命を受けましたが、神学院に行くのが嫌でした。また家内の健康のこともあり、お祈りしている時、エレミヤ書六章16節のみことばが示されて、単立の教会でスタートする決心をしました。不思議なようにウェスレアン・ホーリネスの教会に導かれ、今日まで良きお交わりを頂き、恵みの中で歩むことが許されました。今は家内の健康のことや下の娘のこともあり、無理をしないで、私にできることを感謝をもって対内外的にさせて頂いています。「わたしの恵みは、あなたに十分である。」心から感謝を申し上げます。

神学院スタッフ…恵みの想起

編集・印刷の奉仕①

図書館　三森春生

4期生として入学した翌年、1953年五月ごろ、2年生の私が急に院長から呼ばれた。「君、編集をやったことがあるかね。」

当時蔦田師らが結成した日本新教連盟が福音派諸教会が合同で発行していたCS教案月刊誌「教会学校」が廃刊するのを、IGMの雑誌として譲り受けることになったとのこと。ガリ版刷りの青年会報などを手がけてことはあっても、活版印刷の雑誌編集など未知の世界であったが、有無を言わさず命令されて、即、取組むこととなった。

8月号からということで、原稿依頼、印刷所との打ち合わせなど、すべてが初めてのことばかり。編集の仕事のノウハウを求めて書店の棚を捜し、活版印刷だから、活字のことを一から学ばなければならなかった。

学苑だより

●創立70周年記念事業第一期工事は、9月23日に工事の最終確認と引き渡しが行われました。

●男子寮一階は、5つの個室（2人部屋4室、1人部屋1室）になりました。

●本館玄関を入って右側にあった男子トイレの位置に、男子トイレ、女子トイレが設置されました。

●来年以降、第二期工事について検討します。本館の耐震、屋根の補修などが案にあがっています。

●アラムナイにあわせて行われる2019年の記念感謝の時に、整えられたキャンパスで皆さまをお迎えしたく願っています。

●10月は集中講義、オープンキャンパスなどが行われ、最終の週から後期の授業が始まります。

●後援会からのお願い　各教会の世話人のご推薦をお願い致します。お問い合わせは中山会長まで。

●神学院祈り会は3日（火）です。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げつつ、8月の会計報告をさせて頂きます。

8月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
￥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
￥885,725
教会団体による「神学院献金」
￥541,470
合計￥1,427,195
その他の献金（一時・特別）
￥175,680

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「ヨセフは……二番目の子をエフライムと名づけた。『神が私の苦しみの地で私を実り多い者とされた』からである。」
（創世記四一章52節）

刈り入れの秋、収穫の主を見上げつつ、内外の結実を目指してこれまで真実な取り組みがなされてきたことでしょう。多くの労苦を経て、恵みによって貴重な実りを得る喜びをともに味わうために、それぞれの遣わされた地にあって、なお力を尽くして労させていただきましょう。

■本　部

10月21日（土）は、72回目の教団創立記念日を迎えます。

ＩＧＭ所属の全教会は、この創立記念日を覚えて前後の聖日を「教団創立記念礼拝日」として守り、礼拝時に感謝献金を実施します。主にあるお祈りとご協力をよろしくお願いいたします。

〈会議〉

10日（火）　拡大財務委員会（予算編成方針）

30日（月）～31日（火）　神学委員会（神学部会）

■総務局

厚生労働省による社会保険加入状況についての調査が行われていますが、厚労省との協議で宗教法人は調査に応じる必要がないことになりました。もし教会宛に調査の依頼がありましたら、「宗教法人は調査に応じる必要がないことになっている」とご回答ください。

■国内教会局

〈10月に行われる聖会〉

◇北関東聖会

10月8日（日）～9日（月）
講師・小川宣嗣師
会場・ヌエック

◇中京聖会

10月8日（日）～9日（月）
講師・竿代照夫師
会場・小牧勤労センター

◇北越聖会

10月9日（月）
（新潟地区）長岡教会
講師・林正弘師
（北陸地区）金沢教会
講師・内山勝師

◇中国聖会

10月9日（月）　山口教会
講師・田辺寿雄師

◇中国聖会（宍道湖聖会）

10月9日（月）　松江教会
講師・岩上祝仁師

〈10月に行われる教区会〉

9日（月）～10日（火）　東北教区会
16日（月）　中京教区会
16日（月）～17日（火）　四国教区会
17日（火）　近畿教区会
24日（火）　北関東教区会
30日（月）　中国教区会

《ＪＨＡ関係》

▽第32回関東聖化大会
10月15日（日）～17日（火）
講師・ダイアン・レクラーク師
於・インマヌエル中目黒教会

▽第30回東海聖化大会
10月19日（木）
講師・ダイアン・レクラーク師
於・インマヌエル名古屋教会

▽第73回ウェスレーに学ぶ会
10月20日（金）
講師・ダイアン・レクラーク師
於・ナザレン大阪桃谷教会

▽第10回岡山聖化大会
10月22日（日）
講師・ダイアン・レクラーク師
於・日本イエス岡南教会

▽第28回九州聖化大会
10月24日（火）
講師・ダイアン・レクラーク師
於・基督兄弟団福岡教会

《ＪＥＦ関係》

▽10月23日のＪＥＦ理事会に、藤本満代表、矢木良雄師が出席されます。

■世界宣教局

▽ザンビア（富澤香宣教師　根廻恵子宣教師）では適当な車が見つかり購入するための準備に入ります。支払いや諸手続きに間違いのないようにお祈りください。

▽ケニア（蔦田就子宣教師）8月に行われた大統領選挙が無効になり、今月10月に再選挙となる異例の事態となっています。そのため警戒体制が継続されるので治安のためにお祈りください。

▽フィリピンの豊田恭子宣教師は今月10月にご出産の予定です。宣教地でのご出産に主のみ守りを祈りましょう。

▽蔦田康毅、由理宣教師、富澤香宣教師の巡回が来年3月年会まで可能です。申し込みは蔦田敬子師まで。

■教育局

〈会議〉

2日（月）教育局運営委員会
3日（火）教会学校部部会
5日（木）生涯学習課会議

■聖宣神学院

▽10月の予定

3日（火）　神学院祈り会　本部会議室で午後6時、奨励は内山勝先生。
4日（水）～5日（木）　集中講義～たとえ話を読む（院長）
10日（火）～13（金）　集中講義～キリスト教教育（岩上祝仁先生）
16日（月）～17日（火）　関東聖化大会に参加
20日（金）～21日（土）　オープンキャンパス
29日（日）　教会実習後期開始

▽オープン・キャンパスのご案内

10月20日(金)午後から21日(土)昼まで。案内チラシをご覧ください。これからでもお申込み可能です。

▽オープン・キャンパス2「ＢＴＣリトリート」ご案内

12月28日(木)夜から30日（土）午前まで。夜の聖会は沼津シオン教会の荻野倍弘先生。聖会は一般公開です。

▽信徒土曜講座の秋学期はこれからでも申込が可能です。「信徒として教会に仕える」（田中進先生）は10月28日（土）開講、「続・聖書読解法」は12月2日開講です。

▽秋の入学審査は出願がありませんでした。引き続きお祈りください。

▽後援会からのお知らせ

毎月本部で行われている「神学院祈り会」の神学院の祈りの課題を毎月各教会にお送りします。祈りの機会にお役立てください。

■出版事業部

▽4月に発行された『インマヌエル讃美歌150』は2000冊ほど購入いただき、ご利用いただいております。

▽『聖書 新改訳2017』の早期予約された分は、10月初めから、中型版より順次発送されます。12月初めに出版社への支払いがありますので、到着分の書籍代の送金にご協力ください（本部費送金に加えていただければ感謝です）。

▽『キリスト者の完全』（再刷）、『岩から出る蜜』（再刷）、『信仰教理問答』、聖書通読の手引き『わが道の光』（新刊）を順次発行する予定です。

消息報告

▼岡孝子牧師（大阪伝法教会）のお父様、岡一雄兄が8月18日、92年の地上の生涯を終えて召天されました。ご遺族に上よりのお慰めをお祈りください。

教報ＰＤＦパスワード＝３９８２

発行人　藤本　満　編集者　北田直人
発行所　東京都千代田区神田駿河台一―一　ＯＣＣビル　イムマヌエル綜合伝道団本部
印刷所　埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
新生宣教団　定価　一部一〇〇円（税込）
郵便振替　００１１０・７・１３３６０９